

全国中学生人権作文コンテスト 東京都大会 受賞作品

「日本に住む外国人へのネット攻撃、そして共に生きること」

李 昭憲さん(東京韓国学校中等部2年)

今、私たちはソーシャルメディア、インターネットを通じ、世界とのつながりが密接になっている時代に生きています。便利な反面、それと比例するかのよう日本に住む外国人に対する差別、偏見、ネットでの攻撃も目当たりになります。近頃は、子供がスマホを使用することが当たり前になっていますが、それが偏見を植え付ける事もあるようです。実際に私が体験したことが、この文を書くきっかけとなりました。

私が日本の公立小学校で四年生だった時の話です。あるハーフの女の子と仲良くなりましたが、彼女の目の色は茶色で、髪の毛は薄茶色で、顔にはうすうすとそばかすがありました。ある日、私たちが話をしていると、クラスメイトの男の子が近づいてきて、いきなり彼女に「お前は外国人だからバカなんだね」と言い放ちました。私はこの言葉に驚きを隠しきれませんでした。見た目だけで、本人の存在を一方向的に否定するその言葉に、友達である自分自身も、ナイフでぐさっと刺されたような心の痛みを覚えました。

どうしてこの男子児童は、こんなふうな考えてしまったのでしょうか。名前や外見が外国人に見えるということだけで、日本人と比べて何が劣っていることになるのでしょうか。その男の子がもしも外国に住んだときに、同じようなことを言われたら、私と同じように傷つくはずですよ。

最近は日常だけではなく、インターネットによって否が応でも、自宅の中にも入り込んできます。今では私もすっかりインターネット世界の住民になっています。スクロールすると、次々に目に入ってくる世界中の人々の投稿が、私を笑顔にさせてくれます。遠く、行ったことのない国の人々の面白い動画、素晴らしい景色や食べ物の写真などです。しかし、時には悲しく、不快になることがあります。

私はスマホを買ってすぐ、あるソーシャルメディアアプリに夢中になりました。しかし、差別的な書き込みを目にし、恐怖心を抱くようになりました。日本に住んで十何年も経つ外国人である私には、どうしても気になることがありました。差別されることです。最初、「〇〇人は死ね」などのヘイト

スピーチの投稿を見た時は、自分の首を絞められたように苦しくなりました。その投稿が、直接私に向けたものではないと分かっているにもかかわらず、外国人である私には、どうしても意識するようになってしまいます。特に自分の国に対する差別的言動を目にすると、嫌な影響を受けてしまい気持ちが縮こまってしまいます。

最初は怒りのあまり、投稿主の国籍に対して同じような投稿でやり返したい衝動に駆られました。しかし、その時に思い浮かんだのは、昔、楽しく過ごした日本人の友達の写真でした。冷静になってみると私がしようとしている行動も、関係ない人を傷つけるヘイトや人権侵害になることに気が付きました。そうすれば彼らと同じような存在になってしまうでしょう。「やられたらやり返せばいいじゃないか」という考えには賛成できません。外国人である私は、日本において嫌な体験だけではなく、楽しい思い出や素晴らしい友情も築いてきました。それを、これからも続けられればと思います。

現代では、昔のように自分たちの文化と接する機会が減ってしまったように感じます。他の国でずっと暮らすのであれば、なおさらです。なので、私は自分の国の文化と言葉、そしてルーツを忘れてしまわないために必死に学んでいます。自分の国から来た新しい友達と話し慣れてくると、幼少期に祖母の家で暮らした思い出がよみがえります。日本と自分の国で暮らした体験が生かされ、それが私の中で組み合わさっていくのを感じます。

外国人に対する偏見は、誰でも持つってしまうのかもしれませんが、悪気なく気付かないうちに、相手を傷つけてしまえば、本人にとっても損でしょう。だから、こうしたことが学校の授業、教育番組、国の姿勢で示されれば、それだけでも外国人の居心地は大きく変わると思います。今は、こうした国内のことも、外国にインターネットで知られる時代になりました。日本が外国人と共に生きる開かれた国であると、世界中に知れわたることを願っています。

●東京法務局・東京都人権擁護委員連合会が主催する大会(287校、37,287編応募)で区代表1作品が奨励賞、3作品が作文委員会賞を受賞しました

区内からは8校・1,080編の応募がありました。区代表4作品と参加校の代表8作品は次のとおりです。

【区代表作品】

◆奨励賞(上記紹介作品)

- ▶「日本に住む外国人へのネット攻撃、そして共に生きること」
李昭憲さん(東京韓国学校中等部2年)

◆作文委員会賞

- ▶「幸せの見つけ方」松浦はなさん(牛込第三中2年)
- ▶「コロナ差別の原因」橋爪佑季さん(落合中2年)
- ▶「戦争から考える人権」福地百花さん(西新宿中2年)



【学校代表作品】

- ▶「個人を尊重する社会を目指して」
井上紗雪さん(牛込第三中2年)
- ▶「女性専用車両から考える性差別」野川悠さん(落合中2年)
- ▶「誰もが手をつなげるように」沼田まなさん(落合第二中3年)
- ▶「見えない相手を見つめることで。」鈴木心さん(西新宿中3年)
- ▶「幸せのカタチ」竹内鈴さん(新宿中2年)
- ▶「誰だっておんなじ人間だから」布川希望さん(新宿西戸山中2年)
- ▶「仕方のないことへの解決策」申澹さん(東京韓国学校中等部3年)
- ▶「被害者でない私はその時」吉野和泉さん(学習院女子中等科2年)



消費者講座(オンライン) 講

ウェブ会議ツール「Zoom」を利用した講座です(通信費等は申込者負担)。

●お墓のトラブルと改葬・墓じまい

【日時】12月8日(水)午後2時~3時15分
【対象】区内在住・在勤・在学の方、40名
【講師】横岡宏志(消費生活アドバイザー)



◀NACSホームページ

【申込み】ファックスに5面記入例のとおり記入し、12月3日(金)までに日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会(NACS)東日本支部☎(6434)1125(土・日曜日、祝日を除く午前11時~午後5時)・FAX(6434)1161へ。同支部ホームページ(<http://nacs-east.jp/>)からも申し込みます。応募者多数の場合は抽選。
【区の担当課】消費生活就労支援課(第2分庁舎3階)☎(5273)3834

●SDGs配信講座「サステナブルな手作りスイーツ講座」

【日時】12月12日(日)午後1時~3時30分
【対象】区内在住・在勤・在学の方、30名

【内容】SDGsにおける食料関連の用語解説と、それを生かしたクリスマス菓子の調理(講師は山岡真千子/食育インストラクター)

【申込み】11月27日(土)~12月9日(木)に電話かファックス・電子メール(5面記入例のとおり記入)で新宿消費生活センター分館☎(3205)1008・FAX(3205)1007・E-mail consu@shinjuku-center.jpへ。先着順。



11月30日(いいみらい)は「年金の日」

ねんきんネットを ご利用ください



◆ご自身の年金記録や年金見込額を確認して 将来の生活設計について考えてみませんか

パソコンやスマートフォンからいつでもご自身の年金記録を確認できるほか、年金記録からさまざまな条件を設定した上で、年金見込額の試算をすることもできます。

詳しくは、日本年金機構ホームページ(右下二次元コード。URLhttps://www.nenkin.go.jp/n_net/)をご覧ください。

【問合せ】ねんきん定期便・ねんきんネット専用番号☎0570(058)555(ナビダイヤル)、050で始まる電話からは☎(6700)1144(いずれも月曜日は午前8時30分~午後7時、火~金曜日は午前8時30分~午後5時15分、第2土曜日は午前9時30分~午後4時)へ。

